

実践記録 シリーズ 114

元気です！ 上越市名立の公民館

上越市立公民館 名立地区公民館

主任 沢田 繁



1 はじめに

～僕も『公民館の建設』を思った…～(省略)

2 上越市の公民館活動・まちづくり活動

- 1) 上越市ふるさとアピール年間(省略)
- 2) 上越市の公民館(省略)
- 3) 上越市のまちづくりと名立区での試み～地域自治区(地域協議会・総合事務所)・住民組織～(省略)

3 名立地区公民館の活動

首長部局が主になって、地域自治区内で住民組織を中心に、市民の手によるまちづくりを進める基盤が、このようにつくられていく中で、では「同じ地区を対象とする公民館や社会教育事業はその役割をどう果たしていくべきか」という重い課題が、突き付けられていました。総合事務所内部でも、住民組織が各地区で生まれたことにより、公民館分館の必要性を問う意見も一部にはありました。公民館(事業)は、ご承知のように、モデルや基準が決まっています、その通りにやれば良いというものではありません。

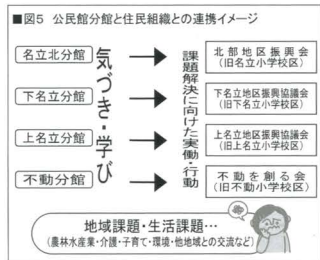
そこで考えることは、「原点に帰る」こと。

『公民館の建設』や『公民館図説』などをあたり、公民館が発案された意図や、瞬間の全国展開に関わった人たちの想いは…?

旧名立町の公民館を創り上げてきた役員や社会教育主事の前輩たちは、どう考え何を行ったか?

そんなことを探りながら、同時に、公民館各分館推進員と何度も会合をもち、キャッチボールを続け、公民館分館と住民組織との役割分担を、図5のように整理しました。

地域の様々な課題は、“学び”にもとづく“気づき”が無ければ、表に出てきません。公民館分館事業を通じて明らかになった課題を、住民組織が受け止め、今度は、課題の具体的な解決を、住民組織が担って行く。そんなイメージ・考えに整理しました。



このような考えで、各分館の具体的な事業計画・内容の見直しを行いました。見直しにあたって、地区公民館として支援を行ったのは、「子ども」「お年寄り」「地域」という3つの視点を提案したのみです。この3つは、今後、各地区でのまちづくりを考えた中で、重要なキーワードになるものですし、推進員を中心に、各地区の住民組織と連携を図っていただきましたからです。

協力員・推進員さんが、何度も集まり、知恵を出しあって、

■表2 平成19年度名立地区公民館事業

名立地区公民館	友好都市との子どもたち交流会/高齢者大楽院・高齢者学級・高齢者体育の集い 芸術文化フェスティバル/名南乳幼児家庭教育学級・たちばな乳幼児家庭教育学級 名立太鼓・少年太鼓クラブ/下名立女性学級・上名立女性学級・不動女性学級 子どもたちの教育を考える集い		
名立北分館	下名立分館	上名立分館	不動分館
昔の映画上映会	山野草を求め歩こう	押し花教室	つきいち教室
親子でキャンプ	新しい仲間を知らう(安原区訪問)	体力づくり教室	ふるさとを探検しよう
盆踊り講習会	ふるさと民芸教室①	フォトコンテスト	花と遊ぼう
地元のお魚教室	ふるさと民芸教室②	区民作品展	すてきなお話し会
実用! 刃物研ぎ教室	ふるさと民芸教室③	男の料理教室	新春講演会
ミニ門松づくり教室	サマースクール(3分館で共同開催)		

表2のような分館事業に結実しました。高名な講師を呼んで大々的に開催する事業はなく、地域に密着した小さな事業ばかりです。このような地に足が着いた事業の積み重ねが、今後の長いまちづくり活動に繋がっていくのだと考えています。

なにせ4月から始まったことですので、開催状況などを、たくさんご紹介できず心苦しい限りですが、計画・予定などの一部をご紹介します。

【名立北分館地元のお魚教室・実用刃物研ぎ教室】

海岸部に位置し、市内最大の名立漁港を抱えるこの地域・分館では、地元で獲れ、いつも食卓に上がる魚介類について、あらためて学んでみよう、と、地元の漁師さんを講師に教室を行います。

また、当日はその魚介類を使った調理実習も行う予定ですので、事前に包丁やナイフなどの手入れ方法を伝授する「実用! 刃物研ぎ教室」も開催します。

【上名立分館フォトコンテスト】

ふるさとの人の営みや自然を、あらためて知り見直そうということで、「ふるさと上名立フォトコンテスト」を開催し、現在、作品を募集しています(写真)。住民組織とも連携して、「交流」という視点も加え、地元の豪華産物を賞品に、地区内だけでなく、市内外からも力作をお待ちしています。



【下名立分館ふるさと民芸教室】

「竹の育ちが悪い場所」と言われる名立区にあって、比較的多く孟宗竹林がある下名立地区では、主に子どもたちを対象にし、地元のお年寄りを講師にして、「ふるさと民芸教室」を開催します。実際に竹を切るところから始めて、「導入」となる第1回は、夏に、その竹を使って「流しソーメン」を行います。次の第2回では、お年寄りが、昔を思いだしながら、竹を使ったスキーとそりづくりを指導します。最終回では、そのスキーとそりを使って、大人も交じって、大いに遊びまわる予定です。

【不動分館ふるさとを探検しよう】

今の大人たちが子どもだった時代。TVゲームも無く、地域の野山や神社などが格好の遊び場でした。そんな経験とふるさとの名勝・旧跡を子どもたちに伝えようと、夜な夜な公民館に集まって、大人たちが昔話をし合いました。第2回目は、住民組織が主催する運動会場の場を借りて、お年寄りから子どもたちまで揃って、その場所の看板づくり(写真)。次回は、その看板を設置しながら、地区をまわって、昔話や経験を子どもたちに話し伝える計画です。



4 おわりに～温故知新と連携・共有～

「公民館の設置によって人々の教養を高め、自主的自立的な気構えを養ってゆくことが何と言っても新日本建設の基礎となるのである。全国各町村に本当の「其の町村のもの」としての健全な公民館が生まれ全地方の町村民の間から日本更生の息吹がむらむらと湧き上って来ることを心から期待するものである。」と寺中作雄氏は、『公民館の建設』の最後をこう締めくくっています。

市町村合併によって、どこでもまだまだ公民館・社会教育事業のあり方について、模索が続くものと思われまます。上越市名立地区公民館の例は、そのうちのホンの一つに過ぎません。今回の大会を機会に、さらに公民館の繋がりが広がって、新しいまちづくりの息吹がドンドン湧き上がってくることを、大いに期待しています。

皆さん、頑張りましょう!